



---

---

# 福島型食料安全保障の確立への

挑  
戦

---

---

令和6年8月  
福島県農林水産部農林企画課

# 福島県農林水産業のポテンシャル(強み)

## 01 全国有数の食料生産基盤

耕地面積 134,500 ha 7位  
[R5]

水田整備率※ 75% 8位  
[R4]

※30a程度以上区画整備済面積

販売農家数 41,060 戸 3位  
[R2]



ほ場整備により大区画化された水田

## 02 全国トップクラスの品質・おいしさ

認証GAP取得数※ 538 経営体 3位  
[R4]  
※ ASIAGAP・JGAP (全品目)

福島米  
食味ランキングで特A取得

福島牛  
全国規模の共励会で最高位受賞

水産物  
「常磐もの」として高い評価



福島県では生産者の皆様と共に、より良い農業の証であるGAP日本一を目指して、認証取得促進に向けた様々な取組にチャレンジしています。

## 03 全国に誇る多様な農林水産物

水稲収穫量 327,600 トン 6位  
[R5]

もも収穫量 28,500 トン 2位  
[R5]

きゅうり収穫量 39,200 トン 4位  
[R5]

なめこ生産量 1,725 トン 4位  
[R4]

ヒラメ漁獲量 697 トン 4位  
[R4]



全国有数の生産量を誇る多様な農林水産物

# 福島ならではの食料安全保障の目指す姿

“**食断**”を生み出さないためにFAOや食料・農業・農村基本法で定める食料安全保障の定義に3つのキーワード「**品質の高さ**」「**おいしさ**」「**健康**」を加えて、生産者と消費者との相互理解を図りながら「**福島型食料安全保障**」の確立を目指す。

“食断”…比叡山のお寺に仏さまを祀った時に灯したと言われる灯火があり、この火は僧侶らが油を絶やさず継ぎ足し続けることで、1200年以上にわたり消えることなく灯し続けられています。油が継ぎ足されず（断たれ）、火が消えてしまうような事態が生じないように、日々注意を怠らないということから、「油断」（油断しない）という言葉が生まれたという話があります。この、昔の灯火の燃料である油が断たれることのないようにという意味で生まれた「油断」と同じ様に、食が断たれる状況を生じさせてはいけない意味を込めた造語

## 福島型食料安全保障の定義

### 【国連食糧農業機関（FAO）】

食料安全保障は、全ての人が、いかなる時にも、活動的で健康的な生活に必要な食生活上のニーズと嗜好を満たすために、十分に安全、かつ栄養ある食料を、物理的にも社会的にも経済的にも入手可能であるときに達成される状態

### 【改正食料・農業・農村基本法（第2条）】

食料安全保障は、良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態

ふくしまプライド。



食料の安定供給にとどまらず、**「品質の高さ」「おいしさ」「健康」**を加えて、

「ふくしまプライド。」が詰まった**「高品質でおいしさあふれる」**県産農林水産物が供給され、一食一食を大切に**健康**で豊かな食生活が満たされている状態

# 福島型食料安全保障の確立に向けた展開

我が国の食料供給拠点として、本県農林水産業が有する高いポテンシャル(強み)をいかしながら福島型食料安全保障の確立に向け、取り組んでいきます。

## 【今後の展開方向】

### 県産農林水産物の 持続的な生産・供給

- 輸入存度の高い大豆・麦・飼料作物等の生産拡大
- 肉用牛産地を支える生産基盤の強化
- 安定供給・ニーズに応える園芸生産拠点の育成
- 汎用性の高い生産基盤の整備
- 担い手の確保・育成、農地集積・集約化 など



ほ場の大区画化・汎用化(大豆栽培)

### 県産農林水産物の 食味・品質の向上

- 「福島ならではの」ブランド力の強化
- 認証GAP取得の推進
- 地球温暖化に対応する技術の開発
- 県オリジナル品種の開発等、食味・品質の向上
- 特別栽培、有機栽培の推進 など



オリジナル品種の開発(福、笑い)

### 本県農林水産業・ 農山漁村への理解促進

- SDGsにつながる地産地消の推進
- 食育の推進
- 農村関係人口の創出
- 子ども達等をターゲットにした情報発信
- 食や農林水産業を知る機会の創出 など



水路に生息する生きもの調査